



令和8年度 前期 伝音セミナー

—日本の希少音楽資源にふれる—

聴講無料・申込不要 / 定員 各回50名 *定員に達した場合は入場をお断りする場合があります

開催時間: 各回とも14:45~16:15 (開場 14:15)

「日本伝統音楽に触れるのは初めて…」という方も、お気軽に受講いただけます。

日本伝統音楽研究センターの教員や研究員が、SPレコード等に残された貴重な演奏音源などを紹介します。

第1回 6月4日(木)

理解と曲解の音楽2 —「日本らしさ」の内と外

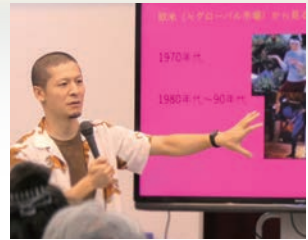
講師: 齋藤 桂

日本伝統音楽研究センター准教授

昨年度前期の伝音セミナーでは、日本国外の音楽で「日本らしさ」がどのように表されているかを紹介しました。

今回はその第二弾として、海外の事例に加えて、日本国内で「日本らしさ」がどのように表現されてきたかにも着目し、その異同をみたいと思います。

前回の様子 (2025年9月25日開催) ▶



第2回 6月18日(木)

音とともに病に向き合う —近世・近代日本の感染症史

講師: 光平 有希

日本伝統音楽研究センター准教授

疱瘡や麻疹、コレラ、結核、スペインかぜなど、日本でもさまざまな感染症が流行してきました。今回は近世・近代に焦点をあて、こうした感染症の歴史をたどりながら、人々が音や音楽とともにどのように病に向き合ってきたのかを紹介します。

ときに祈りやまじないとして、ときに療養や日々の暮らしのなかで、音は人びとの心身を支えてきました。感染症と音・音楽との対峙を、音楽療法史/医療文化史的な視点から紐解きます。

第3回 7月16日(木)

初世常磐津文字太夫の肖像画 —芸能資料の保全と継承—

講師: 竹内 有一

日本伝統音楽研究センター教授

レジリエンスにおける芸術の寄与という観点から、本学日本画専攻正垣雅子研究室・保存修復専攻の協力により、肉筆浮世絵の模写制作に取り組みました(本学の2025年度特別研究プロジェクト)。非公開の原本は常磐津家元所蔵で、絵師は柳文朝。常磐津節開祖の柔かな表情から、あたかもその肉声が聞こえてきそうです。

今回は、制作した模写の出来栄を見ていただきながら、制作の経緯と描画内容について解説します。

また作品に記される常磐津節の古曲「老松」を演奏します。



会場

京都市立芸術大学 伝音セミナールーム 京都市下京区下之町 57-1 (A棟1階)

- ・地下鉄烏丸線・JR各線・近鉄京都線「京都」駅下車徒歩6分
- ・京阪電車「七条」駅下車 徒歩10分
- ・市バス 4・7・16・81・205・南5号系統「塩小路高倉・京都市立芸術大学前」下車すぐ

- ◆ 構内に駐車場はございません。各種公共交通機関をご利用のうえご来場願います。

ご来場方法や座席等について特別な配慮を必要とされる方は、開催日の5日前までに共創テラス・連携推進課までご相談ください。ご希望に沿うよう可能な限り対応いたします。



企画 | 京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター Web <https://rijtm.kcua.ac.jp/>
 主催 | 京都市立芸術大学
 問合せ先 | 京都市立芸術大学事務局 TEL 075-585-2006 (平日 午前8時30分~午後5時15分)
 共創テラス・連携推進課 E-mail public@kcua.ac.jp
 Web <https://kcua.ac.jp/>

